

## ■清須市が実施する一般介護予防事業の状況と今後のあり方

### 1 介護予防普及啓発事業

介護予防活動の普及・啓発を行う。

#### (1) 清須市民げんき大学（官学連携事業）

介護予防に関する座学及び実技。卒業後は交流会や地域での活動ができる人材の育成

開催：年16回、会場：愛知医療学院短期大学

対象：自身の介護予防及び地域活動に参加意欲のある概ね65歳以上の方

《参加者数》

(実人数)

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	合計
人数	30	21	20	22	25	20	138

《現状と課題》

現状	課題
卒業生の活動（令和3年度～） ①会報部「げんき広場」の発行（年1回程度） 内容：健康について、趣味、地域活動についての紹介等 ②健康けん玉サークル（月1回） ③げんき大学に関するボランティア活動や研究協力	・在学中の課外活動（卒業生のサロン等）の見学実習ができていないため、卒業後の地域活動のイメージが作りにくい。 ・地域活動、ボランティア活動等との連携がとれていない。

#### (2) やろまいか教室

週に1回、申込み不要で気軽に参加できるストレッチや認知症予防のコグニサイズを交えた運動教室

会場：アルコ清洲（毎週金曜日）、西枇杷島会館（毎週火曜日）

対象：概ね65歳以上の方

歩行や立位で行う運動が中心（参加者はADL自立。うち要支援者が数名程度）

《参加者数》

(実人数)

年度	H29	H30	H31	R2	R3
アルコ清洲	200	121	91	87	83
西枇杷島会館	—	—	—	54	56
合計	200	121	91	141	139

《現状と課題》

現状	課題
・アルコ清洲 1回あたりの参加人数が50人を超えることもある。 ・西枇杷島会館1回あたりの平均参加者数：R2：19名、R3：24名と増加している。 ・地域の繋がり、通いの場として機能している。	・男性の参加者が少ない。 ・教室の内容が参加者によっては物足りない又は運動量が多く追いついていけない等参加者のレベルに幅があり全員が満足する内容にすることが難しい。

## (3) チャレンジ教室

週に1回、iPadを利用した認知症予防教室

脳トレプリントや回想法等多彩なプログラムを実施

会場：にしび創造センター、ふれあい防災センター、清洲市民センター、春日老人福祉センター

定員：各会場24名（前期、後期ごとに受講者を募る）

対象：概ね65歳以上の方

《参加者数》 H29年度は3会場、H30年度は定員増にて開催。 (実人数)

年度	H29	H30	H31	R2	R3
前期・後期	93	117	105	106	124

《現状と課題》

現状	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人気が高い事業。申込み開始初日に定員に達し、キャンセル待ちが発生。</li> <li>・令和3年度は、LINEを使用したオンラインレッスンを試みた。 (参加者のうち4割が実施)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者にリピーターが多く、新規の利用が少ない。</li> <li>・事業費が高く、他事業に比べると費用対効果が少ない。(講師が2人でプロジェクターや携帯端末を利用するため)</li> </ul>

## 2 地域介護予防活動支援事業

地域における住民主体の介護予防活動の育成・支援を行う。

## (1) いこまいか教室

週に1回、地域の身近な場所で通える運動教室。椅子に座って行う軽運動が中心  
ヨガサイズや口腔体操を実施

会場：23カ所（新川地区8カ所、西枇杷島地区1カ所、清洲地区8カ所、春日地区6カ所）

対象：概ね65歳以上の方

《地区別会場数》 (人)

地区	新川地区(8)	西枇地区(1)	清洲地区(8)	春日地区(6)
会場	坂町、下河原、西堀江、外町、寺野、助七、鍋片、阿原	西枇杷島福祉センター	田中町、伊勢町、西市場住宅、新清洲5.6丁目、西田中弁天、上条、下本町、一場	落合、宮重町、祢宜家、蓮花寺、中之切、上之切
登録者数	274	25	270	122

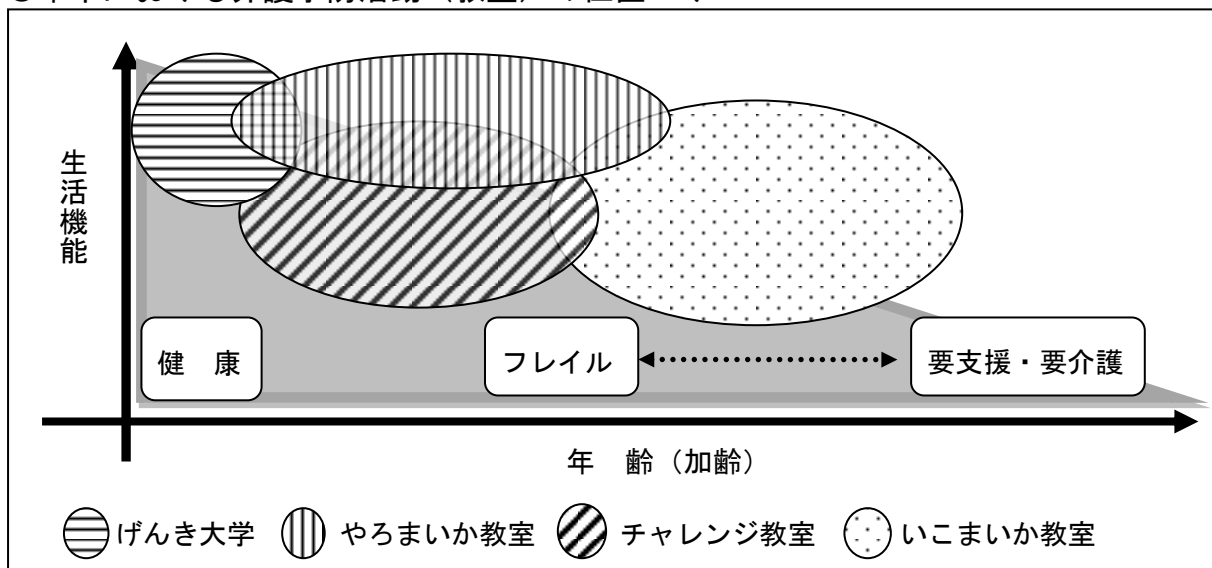
《年齢男女別人数》 (人)

年齢	64歳以下	65歳から74歳	75歳以上	合計
男	0	33	102	135 (19.5%)
女	8	125	423	556 (80.5%)
合計(割合)	8 (1.2%)	158 (22.9%)	525 (76%)	691 (100%)

《現状と課題》

現状	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の約1割が介護保険受給者。</li> <li>・通いの場として、事業対象者、要支援1、2の方の受け皿となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で参加人数に制限を設けている教室もあり、新規の受け入れが難しい場合がある。</li> <li>・運営を担う世話役の高齢化（担い手不足）。</li> <li>・西枇地区が1カ所で開催地区に偏りがある。</li> </ul>

●本市における介護予防活動（教室）の位置づけ



3 地域リハビリテーション活動支援事業

地域リハビリテーション専門職等を活かした自立支援に資する取組を推進し、介護予防を機能強化する。

高齢者が主体となって運営する通いの場へリハビリテーション専門職を派遣し、介護予防教室の充実を図り活動の活性化及び効果的な運動方法等のアドバイスを行う。

- ・年4回の介入を基本とした運動プログラムの定着化
- ・新しく住民活動を開始したい団体への支援

< R 3 実績 2 団体 >

(人)

	地区	講義内容	参加人数
1	新川	体力測定、結果説明講話	70
2	春日	フレイル予防・認知症予防	7
		口腔体操等	10

< R 4 計画 3 団体 >

(人)

	地区	講義内容	参加人数
1	春日	認知症予防、コグニサイズ	7
2	新川	体力測定、認知機能測定結果説明、体操等の実施	23 (予定)
3	西枇	フレイル予防	20 (予定)

《現状と課題》

現状	課題
利用実績が少ない。	・事業支援後にも参加者自らが取り組めるために、通いの場に沿った事業支援を検討する必要がある。

#### 4 地域課題と目標、対策

地域包括ケアシステムの構成要素は、「医療」・「介護」・「住まい」・「介護予防」・「生活支援」の5つです。

「介護予防・生活支援」は地域包括ケアシステムの土台となります。市による介護予防サービス、ボランティア団体による見守り活動の実施。また、地域交流等の社会参加の場や外出支援や家事支援などの生活支援・自立支援を提供します。

**目的** 地域の互助と予防支援活動で実現する地域包括ケアシステム構築の実現

**目標** 健康づくり・介護予防活動が推進される。  
地域で支え合うことができる。

	項目	地域課題	対策
1	生活支援	家事支援、ゴミ出しボランティアの人材確保ができない。 ・住民主体型サービスがない。 ・家事サポート養成講座を受講してもシルバー人材センターの登録に繋がらず、人材不足となっている。	○げんき大学を通して支援できる人材の育成 生活支援訪問サービスの充実 ・住民主体型サービス ・きよす家事サポートサービス
2	介護予防	一般介護予防事業のそれぞれの内容についての検討が必要	○市が開催している介護予防事業を啓発 ＜チャレンジ教室＞ 新規の参加者を増やす 事業の有料化（ワンコインレッスン） オンラインの実施（リピーターの受け皿） ＜いこまいか教室＞ 西枇杷地区が1カ所しかなく、既存の介護予防自主グループを取り込んだ教室再編やいこまいか教室に相当する予防教室を新規開設し、地区の空洞化を防ぐ。 ○住民主体の地域サロンづくり ＜地域リハビリテーション活動支援事業＞ 高齢者が主体となって運営する通いの場の現状を分析して目標を設定し自宅でも継続して取り組める内容を提示し、参加者と一緒に目標が達成できるよう継続的に支援する。 ・げんき大学の卒業生による広報紙の発行やけん玉の普及啓発による介護予防の推進 ・男性の参加者を増やすための工夫
		インフォーマルな集いの場が不明確	・生活支援コーディネーターの複数配置（3名）による地域のニーズの把握と地域資源のマッチング ・地域資源マップや社会資源を広く周知できるような情報発信